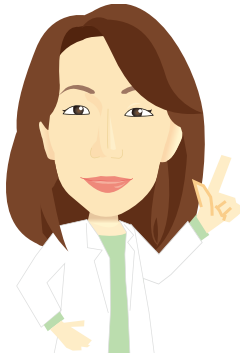


真理子先生の

女性のさかた

子宮頸がんとは？



伊藤 真理子

●(いと・まりこ) 1986年(昭和61年)山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に真理子レディースクリニックを開業。日本産婦人科学会認定産婦人科専門医。

先月の「検診のオススメ」をご覧いただき、今年度奇数年になる方も検診手続きをして下さって嬉しい限りです。ただ無料券の御案内で多少誤解を招いてしまいました。紛らわしいのです。通常の隔年検診では今年度偶数歳になる方が当てはまりますが、子宮頸がんの無料券に限っては昨年中に20歳、25歳、30歳、35歳、40歳になつ

た方が対象なのです。その無料券がお手元に届いているかどうか。ぜひご活用下さい。

子宮にできる悪性の腫瘍

その子宮頸がんとは子宮にできる悪性の腫瘍です。発生場所が大きく2つに分けられ、子宮の奥の子宮内膜にできるのが子宮体がん、子宮の出口の粘膜表面に出来るのが子宮頸がんです。

子宮の出口はとてもデリケートです。外から見ることはできませんが、口腔の中よりさらに傷つきやすいのです。特に女性ホルモンの多い年代は子宮腔部ピランと言われ

る状態、つまり外敵から体を守るための粘膜が存在しない繊細な部分があるのです。そこが外敵、つまり細菌やウイルス等に感染しやすいということになります。

性交渉で感染！

ご存知の方もいらつしやるかもしれませんが、

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)に感染することが発病のきっかけです。性交渉で感染するわけで、高校生にも子宮頸がん検査をオススメしています。

やがて子宮がんにも

HPVに感染しても抵抗力の強い方はウイルスが自然消滅する場合もあります。HPVに長期間さらされると子宮腔部の粘膜が異型成という変化を起こします。なるのに数年かかるとも言われています。異型成の一部が前がん状態になり、さらに時間をかけて子宮がんに変化していくのです。

